

鶏肉情勢

令和5年2月8日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和4年11月末実施)によると、12月の推計実績は処理羽数66,960千羽(前年比99.0%)、処理重量204.8千ト(同98.8%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は1.2%下方修正され、処理重量は前月時点の計画値通りとなった。九州の産地では大腸菌症の発生が例年より少なく増体も順調、東北の産地では寒さの影響で換気が上手いかず、大腸菌症が発生した農場があったとのこと。生産状況は概ね順調であり、処理羽数の前月予測からの減少に比べ、処理重量の減少値が少なかったことから、増体も良かったことが伺える。 (2) 1月の処理羽数、処理重量とも前年をわずかに上回る見通しとなっている。地区別で見ると処理羽数は全地区で前年を上回る見通しであり、処理重量は南九州地区以外は前年を上回る見通しである。今期は鳥インフルエンザの感染が爆発的に広がっており、移動制限区域に入り、ブロイラーとして出荷できなかった鶏もあつたと聞かれる。今後も発生が続く恐れがあり生産への影響が懸念される。また、工場の人員不足は引き続き厳しい状況が続いており、加工品(切り身・手羽中二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整は続くと思われる。
	2. 輸入 (1) 財務省1月27日公表の貿易統計によると令和4年12月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲5.5千トの44.3千トで、国別ではブラジルが▲6.0千ト、タイで±0千トとなっている。前年同月の実績に対しては▲16.4千トとなった。タイの輸入量が回復したものの、ブラジル産が大幅に減少となった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、1月が47.8千ト(前年比88.9%)、2月が49.4千ト(前年比99.7%)となっている。1月は前月に比べ若干の増加が予想される。ブラジル産は中国のコロナ防疫緩和措置の影響もあり、今後の買付けに変化がおきる可能性がある。タイ産は製造の回復により今後も増産が予想され、欧州向けの輸出が芳しくないとの話もあり、国内向けに流れることが考えられる。年末年始の国内市場ではブラジル産モモ肉の国産品不足に対する代替え需要があつたが、年明け後も引き続き一定の需要が予想される。タイ産においては増量の影響により国内産むね肉価格への影響が予想される。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲2.7千トの40.4千トで、国別では中国が▲0.8千ト、タイが▲1.7千トとなった。前年同月の実績に対しては▲7.8千トとなり、前月比・前年比ともに下回る結果となった。タイの生産は回復したが12月実績は減少となった。1月～12月累計では前年比107.3%となっている。価格については現地価格は高騰しており、上昇傾向となっている。外食については回復傾向であり、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。 (3) 財務省が1月27日に公表した貿易統計によると12月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より45.4%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より19.0%上昇した。国別ではブラジル産の価格が371円/kg(前月比51円安)、タイ産が422円/kg(同64円安)となっている(国別平均価格)。円安が落ちつき前月比では大幅に価格が下がったが、前年比では依然としてコスト高により高値が続いている。ブラジル産は市場価格は下がっていたが現地価格は上がっており、中国のコロナ防疫措置緩和や国産品不足の代替え需要などにより上昇傾向になるとの話が聞こえている。タイ産については製造量の増加や円安の落ち着きにより市場価格も下げ基調となってきている。今後の国産鶏肉への影響に注視したい。
家計消費	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和4年12月の生鮮肉消費(購入)は数量4,773g(前年比99.1%)、金額8,589円(同105.8%)と、数量は前年を下回り、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,729g(同102.0%)・金額1,854円(同108.9%)・単価107.2円/100g(前年同月+6.8円)と、数量・金額・単価とも前年を上回る結果となった。調理食品が金額16,074円(同105.4%)、外食が14,313円(同102.9%)となっている。クリスマス商戦が週末と重なったことや年末の帰省客の増加により内食が増えたと考えられる。外食においても、行動制限もなく、全国旅行支援や飲食店支援策も実施され、加えて入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、回復基調にあると考えられる。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和4年12月の食品売上高は全店ベースで前年比104.9%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同103.2%、既存店ベースは同101.7%となった。また、畜産部門の売上高は約1,419.6億円で全店ベース同105.6%、既存店ベース同104.0%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、前年に比べ帰省客が増加した影響で、立地により好不調がわかる状況となったとのこと。クリスマスや年末商戦は好調に推移したものの、それ以外の時期は価格高騰により買い上げ点数は減少したとのこと。畜産部門においては、帰省客増加の恩恵を受けた地域は、すき焼き、焼肉用などごちそうメニュー用食材を中心に動きがよくなったとのこと。他では豚肉や鳥団子などなべ物用の動きはよく、加工肉も価格が高騰しているが、お歳暮の関連では回復傾向がみられたとのこと。輸入牛は価格高騰の影響が大きく動きが鈍く、豚肉は小間切れやミンチなどが好調、鶏肉はクリスマス商戦が好調で、鳥インフルエンザの影響もあるが前年並みの売上を確保したとのこと。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和4年12月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比102.1%の4.3千トとなった。うち国内品は同109.7%の3.7千トと前年を上回り、輸入品については同73.6%の0.7千トと前年を下回った。
在庫	1. 令和4年12月 (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産24.6千ト(前年比69.5%・前月差+1.2千ト)、輸入品124.2千ト(同108.5%・同▲5.7千ト)と合計で148.8千ト(同99.3%・同▲4.5千ト)となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、12月の出回りは国産152.1千ト(前年比97.9%・前月差+5.9千ト)、輸入品50.0千ト(同82.1%・同+2.7千ト)と合計で202.2千ト(同93.5%・同+8.6千ト)となった。1月以降の国産在庫については、年末の特需期も終わり、売れも落ち着きつつあるので、若干増加していくと予測する。輸入鶏肉については前述の(独)農畜産業振興機構(ALIC)予測でもあるように、1月・2月の出回りは前年同月を下回ると予測されているものの、入荷量は前年同期の在庫数量が低水準であったことでブラジル産の輸入量が多かったこと等から前年を大きく下回る見通しであり、期末在庫は1月・2月とも前年を下回ると予測する。
相場	1. 令和5年1月動向 (1) 令和5年1月の月平均相場は、モモ肉805円/kg(前月差+32円)・ムネ肉422円/kg(同+5円)正肉合計で1,227円/2kgと前月を37円上回り、前年同月を248円上回った。モモ肉相場は月初805円、月末は806円となり(昨年は月初658円、月末649円で9円の下げ)、昨年の相場を大幅に上回った。例年であれば、成人の日の連休明けから、販売も落ち着き時期だが順調に推移した。ムネ肉は、生鮮品での販売は落ち着きつつあるが、加工向け冷凍品の引き合いが依然強い状況である。鳥インフルエンザは、1月国内で19例発生し、供給面に影響を与えている。これらにより正肉価格は例年になく高水準を維持し、1,200円/2kgを超えて推移した。
	2. 見通し (1) 2月の生産量は、前年より若干上回る計画である。しかし、鳥インフルエンザの発生が2月7日時点で今季国内25道県74例目まで報告されており、今後も拡大する恐れがある。2月3日、肉用種鶏農場では今シーズン初の鳥インフルエンザの感染が鹿児島県で確認され、今後の生産への影響が懸念される。量販店は相場高の影響で輸入解凍品や手羽元を価格訴求品として販売している店舗も多いと聞かれる。加工原料も輸入価格の高騰により、国産品にシフトしていたが、再び輸入品に切り替える動きがあると聞かれる。生鮮品の動きも落ち着き、ひっ迫感はなくなった。以上のことから、鳥インフルエンザの影響による供給減が懸念されるが、モモ肉相場・ムネ肉相場ともに若干下げのモモ肉相場月平均800円、ムネ肉相場月平均405円と予測する。 (2) 年明けの販売状況は、鳥インフルエンザの影響による供給不足により、連休明けも順調に推移してきたが、2月に入り、売れは落ち着きつつある。冷凍品価格も輸入品価格の下げに伴い、下げ基調となっている。また、豚肉相場の下げに伴い、量販店では豚肉の販売にシフトしていると聞かれる。しかしながら、今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば比較的安価な鶏肉の販売は順調に推移し、鳥インフルエンザの影響で供給量が低下することが予測されることから、鶏肉相場は高水準で推移していくと思われる。

実績												
生産状況 単位:千羽、千ト、%												
	R4年12月推計実績		R4年度計		R5年1月計画		R5年2月計画		R5年3月計画			
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比		
入雛羽数	68,660	98.1%	774,648	100.1%	65,227	101.7%	60,914	102.5%	64,485	100.9%		
処理羽数	66,960	99.0%	737,283	100.4%	61,107	102.6%	58,295	101.6%	65,534	100.3%		
処理重量	204.8	98.8%	2,216.4	99.9%	182.4	101.3%	176.5	101.5%	196.8	100.0%		
※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」												
輸入動向 単位:千ト、%												
品名		鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴		当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計		595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年7月		45.6	44.8	101.9	43.8	43.9	99.9	89.4	88.6	100.9	51.0	49.0
R4年8月		47.4	46.9	100.9	47.8	44.1	108.5	95.2	91.0	104.6	49.8	50.2
R4年9月		46.8	45.2	103.5	44.3	31.8	139.2	91.1	77.0	118.3	51.4	48.6
R4年10月		53.9	51.2	105.3	44.1	35.2	125.4	98.1	86.4	113.5	55.0	45.0
R4年11月		49.8	57.8	86.2	43.1	43.8	98.5	92.9	101.5	91.5	53.6	46.4
R4年12月		44.3	60.7	73.0	40.4	48.2	83.8	84.7	108.9	77.8	52.3	47.7
R4年累計		574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」												
鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%						相場(年別・暦年) 単位:円						
履歴		数量			金額			モモ肉		ムネ肉		計
		当年	前年	前年比	当年	前年	前年比					
R3年平均		1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9	H27年		639 336 975		
R4年7月		1,439	1,440	98.1	1,345	1,265	103.5	H28年		621 255 876		
R4年8月		1,372	1,449	99.9	1,309	1,341	106.3	H29年		626 315 941		
R4年9月		1,492	1,546	94.7	1,386	1,383	97.6	H30年		595 282 877		
R4年10月		1,574	1,559	96.5	1,534	1,424	100.2	R元年		585 243 828		
R4年11月		1,495	1,536	97.3	1,505	1,429	105.3	R2年		614 269 883		
R4年12月		1,729	1,695	102.0	1,854	1,702	108.9	R3年		641 313 954		
R4年平均		1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7	R4年		662 348 1,010		
※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)												
在庫状況(推定) 単位:千ト、%												
履歴		国産			輸入品			合計				
		当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年7月		28.9	34.5	83.6	121.1	113.7	106.5	150.0	148.3	101.2		
R4年8月		28.5	34.9	81.7	121.2	111.4	108.8	149.7	146.3	102.3		
R4年9月		25.8	33.8	76.5	121.2	107.6	112.7	147.1	141.4	104.0		
R4年10月		25.2	34.7	72.7	127.5	108.2	117.8	152.7	142.9	106.9		
R4年11月		23.4	33.6	69.7	129.9	114.7	113.3	153.3	148.2	103.4		
R4年12月		24.6	35.5	69.5	124.2	114.4	108.5	148.8	149.9	99.3		
※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」												
相場(月別) 単位:円、%												
品名		モモ肉			ムネ肉			正肉合計				
履歴		当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年9月		667	580	115.0	364	316	115.2	1,031	896	115.1		
R4年10月		697	603	115.6	376	328	114.6	1,073	931	115.3		
R4年11月		729	619	117.8	396	333	118.9	1,125	952	118.2		
R4年12月		773	641	120.6	417	340	122.6	1,190	981	121.3		
R5年1月		805	649	124.0	422	330	127.9	1,227	979	125.3		
R5年2月		(800)	649	123.3	(405)	330	122.7	1,205	979	123.1		
R5年3月		(785)	646	121.5	(395)	323	122.3	1,180	969	121.8		
※()は見通し												